

生活防災

「ふだん」と「まさか」の接点をつくる

矢守 克也

(京都大学防災研究所)

1

話の流れ

1. 具体的な事例・とりくみ

- 都賀川での水難(神戸市灘区)
- 「雨プロジェクト」(ウェザーニュース)
- マップづくりと高地移転(高知県四万十町)
- 「満点計画」(京都府京丹波町、鳥取県日野町)
- 防災ゲーム「クロスロード」
- 「町内チャンピオンマップ」(兵庫県加古川市)
- 「チーム・エスタラヒ」(オーストリア)

2. まとめ

- 「してもらう/してあげる人」から「共にする人たち」へ
- 生活防災 : 「ふだん」に「まさか」を忍ばせる工夫

2

都賀川での水難

3



- ・3葉の写真 = すべてほぼ同じ地点(甲橋)
- ・「危ない時(まさか)」と「楽しい時(ふだん)」が、ときに交わる 「警報」
- ・「危ない場所(自然)」と「楽しい場所(社会)」も、ときに交わる 「堤防」

4



2008年7月28日、神戸市灘区の都賀川で子どもら5人が亡くなった増水事故を受け、兵庫県が大雨、洪水の注意報・警報発令を知らせるために設置した回転灯3件について、都賀川利用者の約7割が「なぜ作動するか」を理解していないことが、県のアンケートで分かった。また、回転灯の点灯を見た人の約半数が「避難しなかった」と回答。県は7月中旬から、点灯の意味を知らせる横断幕5枚を掲示した。(神戸新聞2010年7月26日付;神戸大学藤田一郎教授調査)

5

「全員攻撃、全員守備」： みんながセンサー

- プロフェッショナルの情報、しっかりキャッチしよう。でも、それを「待っているだけ」じゃ不十分。プロの情報と自分の「実感」を合わせもつことが大切!
- 事後的に、でいいから、「あのときはこんな状況だった」(写真、ビデオ、体験談)を共有してはどうでしょうか? 水防団、自主防の方などの役割の一つとして。都賀川についての学習のテーマの一つとして。

6

「危ない時こそ教え時、 楽しい時こそ学び時」

- 危ないこと(水害・増水)も楽しいこと(魚とり・水遊び)も、一緒に、同時に、教えよう(学ぼう)!
- 楽しい増水の危険性の啓発・教育するなら、楽しいイベントのときに、その場所(親水施設)でこそしよう! 「川開き」のときはどうでしょう?
- 楽しい時(「やさしい川」)だけじゃなく、危ない時(「こわい川」)も、子どもたちに見せよう! 西郷小の校舎、阪神大石駅ホーム、灘署、そして、この区民ホールからなどどうでしょう?(もちろん、大きなショックを受けた子どもたちがいることは忘れずに。)

7

都賀川増水事故を踏まえた防災教育緊急教材 (小学校低学年用から)



8